

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（8月）①

水稲：斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

イネホソミドリ
カスミカメ
(アカヒゲ
ホソミドリカスミカメ)

ホソハリカメムシ

特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ(別名アカヒゲホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。
- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。
- ◆ 薬剤散布は出穂期～穂揃期に行う。

防除のポイント

- ◆ 出穂10日前までには場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。
- ◆ 出穂期～穂揃期にトレボン乳剤、スタークル粒剤等を根元まで届くように散布する。発生が多い時は乳熟初期(出穂後10日頃)にも散布する。

イネカメムシに要注意！！



イネカメムシ

本府では現時点では顕著な被害は出ていないが、近年、関東から西日本の複数の都府県から斑点米カメムシの一種であるイネカメムシによる基部斑点米又は不稔米被害が報告されている。イネカメムシは水田飛び込み時期が他のカメムシより少し早めで、開花直後から穂の吸汁加害を始めるので出穂直後の防除が必要となる。予察情報等に注意して発生が見込まれるときは防除時期を逸さないように注意する。

原図：農林水産省植物防疫所病害虫情報 第127号

果樹類全般：果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)、アディオン乳剤(かんきつ、もも、かきなど)等を散布する。

令和6年5月16日発出の病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類」についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2405_chuuihou01-kajukamemushirui.pdf

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（8月）②

ぶどう：フタテンヒメヨコバイ



被害葉 *

特徴

- ◆ 葉の裏側から吸汁する。被害部分は色が白く抜ける。

防除のポイント

- ◆ 園周辺の草むらや落葉下で多く越冬するので、周囲の除草や清掃に努める。
- ◆ 発生に注意し、被害の初期に防除する。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル(アルバリン)顆粒水和剤、アディオン乳剤等を散布する。

ぶどう：ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆ 加温機の近くやダクトの先端部等、高温になりやすいところから発生することが多い。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブル等を散布する。

次回の情報は8月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html**農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（8月）③

なす：うどんこ病



葉表の病斑



葉裏の病斑

特徴

- ◆ チッソ過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を予防的に散布し、発生を認めたらパンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

ねぎ：ネギアザミウマ(えそ条斑病)



えそ条斑病の葉の病斑



ネギアザミウマ

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、アグリメック等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は8月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（8月）④

きく：黒斑病、褐斑病



病斑*

特徴

- ◆ 雨滴によって感染が拡大する。
- ◆ 病原菌の生育適温は24～28℃ぐらいである。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ ダコニール1000等を散布し、予防に努める。
- ◆ 発生を認めたら、ベンレート水和剤、ストロビーフロアブル等を散布する。

注)ダコニール1000は、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、かぶれに注意する。
ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

野菜類・花き類：シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 本種はねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、早期発見に努める。
- ◆ 発生を認めたら、プレオフロアブル(ねぎなど)、グレーシア乳剤(ねぎなど)等を散布する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

次回の情報は8月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(8月)

A 水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲		いもち病			
			縮葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
			紋枯病		
					斑点米 カメムシ類
			トビイロウンカ		

B 果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
果樹類全般					果樹 カメムシ類
ぶどう			べと病		
		褐斑病			
			晩腐病		
			黒とう病		
			チャノキイロアザミウマ		
				フタテンヒメ ヨコバイ ハダニ類	
もも (収穫後防除)			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			ミカンサビダニ		

C 野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病		
		アザミウマ類			
ねぎ			ネギアザミウマ(えそ条斑病)		

D 花き

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病	
			アザミウマ類		

E 野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
			オオタバコガ		
			アブラムシ類		
			コナジラミ類		

水稻

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、チッソ過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆ 常発ほ場でいもち病に登録のある箱施用剤を使用していない場合は、発生前にオリゼメート粒剤、コラトップ粒剤5等を散布する。
- ◆ 葉いもちの発生を認めたら治療効果のあるブラシンフロアブル等を散布する。

縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



発生株



ヒメトビウンカ【成虫】

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆ リ病株では、新葉が垂れ下がって枯死する(ゆうれい症状)。

防除のポイント

- ◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆ 箱施用剤を使用していない場合や発生が多い場合は、本田防除剤スタークル(アルバリン)粒剤、アプロード水和剤等でヒメトビウンカの防除を徹底する。

紋枯病



紋枯病発病株

特徴

- ◆ 水際の葉鞘部分に楕円形の病斑ができる。
- ◆ 病原菌は糸状菌の一種で高温(28~32℃)、多湿時に多発する。

防除のポイント

- ◆ チッソ肥料の過用、遅い追肥は避ける。
- ◆ 発生を認めたら、バリダシン液剤5、モンガリット粒剤などを散布する。

注意！

水稻でのモンガリット粒剤の使用時期は「収穫45日前まで」

水稻

トビイロウンカ



成虫



坪枯れ症状

特徴

- ◆ 6月下旬～7月上旬の梅雨時期に中国大陸から長翅型成虫(飛来世代)が日本に飛来する。
- ◆ 水田に着地したトビイロウンカは分けつ期のイネの株元に住み着き、茎の表面に産卵する。



幼虫

- ◆ 卵は1週間ほどで孵化し、幼虫(第1世代)は親と同じくイネの株元で、その師管液を吸汁して成長する。その後、数回の脱皮を経て成虫となる。第2世代、第3世代が繁殖し、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じる。

防除のポイント

- ◆ トビイロウンカは稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。
- ◆ 発生が見られたら、エクシードフロアブル、エミリアフロアブルなどを散布する。

詳細は、病害虫カラー技術資料「水稻 トビイロウンカの防除 改訂版 R4.3」をご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tobiuro/R4tobiuro_manual.pdf

ぶどう

べと病



葉裏の症状



葉表の症状

特徴

- ◆ 雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたらエトフェンフロアブル、レーバスフロアブル等を散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、笠・袋かけ後は棚上散布を行う。

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

ぶどう

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

褐斑病



被害葉



被害葉(拡大)*

特徴

- ◆ 米国系品種に弱い品種が多く、デラウェア、バッファローなどに発生が多い。
- ◆ 多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、オンリーワンフロアブル、ネクスターフロアブル等を散布する。

晩腐病



被害果※

特徴

- ◆ 新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発しやすい。
- ◆ デラウェアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きつるなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
- ◆ 笠かけや袋かけを行う。
- ◆ 被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 前年度の発生状況をふまえ、フルーツセイバー、ファンタジスタ顆粒水和剤等を予防的に散布する。

黒とう病



被害果



被害果(拡大)

特徴

- ◆ 葉、果実、新梢、巻きヒゲに発病し、大粒系に発生が多い。
- ◆ 枝や果実に黒色の病斑が生じ、果実肥大の不良など品質低下につながる。

防除のポイント

- ◆ 雨よけすることで被害が軽減できる。
- ◆ 被害果房や枝は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 5月中旬以降は園芸ポルドー、ストロビードライフロアブル等を予防的に散布する。

ぶどう

チャノキイロアザミウマ

※注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しない等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

- ◆ ディアナWDG、エクシレルSE等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

もも

せん孔細菌病



被害果



葉の病斑

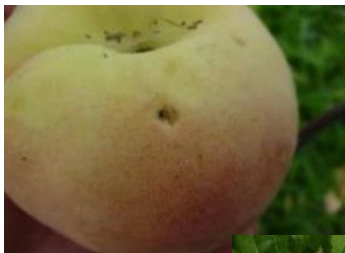
特徴

- ◆ 葉に黄色から赤褐色の病斑が生じ、やがて穴が開く(せん孔)。
- ◆ 果実でも針で突いたような褐色斑点を生じ、果実生育により大小様々の病斑となる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 枯れ込んだ枝の切除、発病葉、発病果の持ち出し等により越冬伝染源の密度を下げる。
- ◆ 収穫後、秋季(9~10月)にICボルドー412を散布する。

シンクイムシ類



被害果



被害枝

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期にノーモルト乳剤、アディオン乳剤等を散布する。

みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、ストロビードライフフロアブル(かんきつ)等を散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
- ◆ ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイトプラスフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ



被害果*

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生の初期に、ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤等を散布する。
※注意！
かんきつ(みかんを除く)では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時期に注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。
- ◆ ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、コテツフロアブル、ダニカット乳剤20等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜

なす

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※



被害果

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

花き(きく)

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ 花弁にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどが加害し、葉には主にクロゲハナアザミウマなどが加害する。
- ◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス(TSWV※1、CSNV※2)を媒介する。

※1 キクえそ病の病原ウイルス ※2 キク茎えそ病の病原ウイルス

防除のポイント

- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ ビニールなどのマルチングにより、土中での蛹化を防ぐ。
- ◆ 施設開口部に目合い0.8mmの赤色ネット又は0.4mmのネットを展張する。
- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC(花き類・観葉植物(除りんどう))、アファーム乳剤などを散布する。

野菜類・花き類

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アディオン乳剤(さといも、さといも(葉柄)、オクラなど)、ディアナSC(かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

https://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

コナガ



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、ゼンターリ顆粒水和剤(野菜類など)、ディアナSC(キャベツ、こまつななど)等を散布する。



成虫 ※

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバゾンフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

令和6年5月24日発出の病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2405_chuuihou02-ootabakoga.pdf



卵

野菜類・花き類

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ※

特徴

- ◆ すず病の原因となる。タバココナジラミは、トマトでは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬、きゅうりではCCYV(ウリ類退緑黄化ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病などのウイルス病は、感染すると株ごと除去する以外に対策がないため、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ ベネビアOD(トマト、きゅうりなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。